

支部だより

神戸支部の活動

“星を楽しむ者よ手を握れ”このスローガンが會の一角に擧つて4年、京都に大阪に、高知に、満洲に、着々會員と會員とが結び合つて趣味を楽しむための支部が誕生し、甦生し、それぞれ地方色を發揮して諸種の催を行ひ、會の發展の上に大きい動力となつてゐる時、又々、神戸に潑刺たる支部の活動が開始された。神戸在住の改發、笹部、美田、神田、柳部、乾諸氏の盡力と本部並びに理事の幹旋後援によつて昨秋10月スタートして以來、諸種の通信を發し、10月23日、11月13日、12月6日と毎月例會を開催し、殊に11月21日には協會昭和12年度總會開催を引受け、各地より參集の會員41名によつて盛會裡に完了させられた努力は多とする處であり、本部並びに各地支部との連絡によつて今後の活動は大いに期待せられる。

同支部報の一部に「會する度を重ねるにつれ個人接觸が深められ、星につらなる幾多の智識を與へられる事は本當に嬉しい事である」とある。京阪神三部の支部が確實な基礎の上に立つて活動を見せる事になつたのは全く喜ばしい事である。(地方係)

大阪支部通信 (一月)

☑銀河第1巻第6號は十一月5日發行で堂々60頁の偉容。

表紙「ペル1日食コロナスケッチ」、口繪「ペル1日食コロナ寫眞」山本博士
撮影密着燒寫眞、扉詩「秋夜漫吟」改發香塙、「ペル1日食觀測記」山本博士、
「ペル1日食コロナスケッチに就いて」西森、「星のぞき」(6) イグレッツ生、
「星座圖形と傳説」(5) 宮森、「變光星雜話」西川、「ノルトン星圖第6版」S. I.
生、「小カンオベヤ」天狼星、「瞻星臺に就いて」青木、「雷斧」津久井、「隕石
降下地を訪ねて」久井、1等星問答、「天文街を往く」(6) 漫歩士、「編輯後記」
同人記。

☑久井清司・富谷隆雄兩君の御入營、非常時局を背負つて國家の干城として10日に目出度く御入營。

☑一月9日幹事會 銀河の校正と久井君の送別會、出席者11名。

☑一月16日例会 伊達幹事宅にて夕方より、山本會長夫人同伴にての御光臨を仰ぎ「中央天文臺の計畫」の御紹介あり、座談會に新年茶話會として天文談話の花が咲き餘興としての福引には珍品奇品を引當てゝ一同腹を抱へて打ち興じ和氣霽々裡に22時過閉會、出席者16名。

☑銀河第2卷新裝の第1號發行。 一月5日發行益々内容充實し山本會長の絶讃を博しました。

表紙「日食連續寫眞」寫眞版、口繪「オリオン星座と銀河の一部」密着燒寫眞、扉詩「銀河」廣津藤吉、卷頭言「寅年に因んで」S. I. 生、「太陽と無線通信」小關勇、「氣象的黃道光に就いて」廣瀬永治郎、「星のぞき」(7) イグレッタ生、「星座圖形と傳説」(6) 宮森、「新星」岡林滋樹、「最近年の顯著な新星」、「日食連續寫眞を撮る」伊達、「國旗の天文學」西森、「寅彦全集より」、「燈火管制と星」谷口道夫、「天文街を往く」(7) 漫步士、「プラネタリウム12個月話題豫定」、「編輯後記」、附録第1卷總目次。

巡迴天文展覽會の計畫

本會事業部では、地方支部の發展策として、天文展覽會の資料を蒐集し、下記の條項に基き、有志會員の需めに應ずる計畫中で、目下材料の蒐集に努めてゐる。

1. 地方支部主催となつて、天文展覽會を開催する場合、天文寫眞や圖表を無料で貸出す。
2. 展覽會資料は運送費用のみ、主催者側に於いて負擔とする。
3. 申込みは本會々員に限る。(精細内容は準備成り次第發表す)

11 月 號 の 訂 正

本誌第119號(昨年11月號)第39、40頁の昭和13年天文曆表の中、次の如く訂正いたします。

12月の日曜表より31日を除く。

8月の新月は25日20時17分と訂正。

海王星の東留は12月27日と訂正。

5月14日の月食は「日本では月出の時に……」と訂正。

11月8日の月食は「我が國では月没の時に……」と訂正。